

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう



目次

- ☆虫めがね 2
- ☆区民祭り感想1 3
- ☆区民祭り感想2・スケジュール . . . 4
- ☆きょうされん大会感想1 5
- ☆きょうされん大会感想2 6
- ☆きょうされん大会感想3 7
- ☆きょうされん大会感想4 8
- ☆学習会報告・活動報告・寄付のお礼 9
- ☆小野塚連載 10
- ☆太田連載・夕会便り 11
- ☆編集後記 12

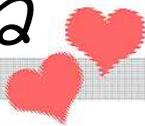


今年の四月に、僕にとってのはとこが生まれました。
嬉しそうに笑った顔がかわいいです。
頭がいいから、「おはよう」「こんにちは」「こんばんわ」
の挨拶をもう覚えました。
すくすくとこれからも元気に育ってほしいです。
松本恵司

巻頭文



虫 めがね



好きな言葉は、「人は人、自分は自分」です。いくら人と
比べるものではない。人にはそれぞれ得手不得・器用な事、
不器用な事がそれぞれあるのだから……。その人の得
意な事をしていけば人生楽しく生きられるのではないでし
ょうか？

三木 直人

僕が好きな言葉を四字熟語やアニメ・漫画の台詞等から書き出したと思います。
四字熟語・格言等では、『風林火山陰山雷』（風林火山）・『騎士道』・『（前略）同年、同月、
同日に生まれることを得ずとも、願わくば同年、同月、同日に死せん事を』・『一所懸命』
・『悪木盗泉』・『一諾千金』・『誠心誠意』・『正々堂々』・『滅私奉公』・『清廉潔白』・『臥薪
嘗胆』・『獅子搏兔』・『獅子翻擲』・『有言実行』・『無言実行』・『一日一善』・『忠肝義胆』・
『力戦奮闘』・『存在理由』・『人身御供』です。
どうして好きかや意味等を一部説明しますと、騎士道は、武士道と若干似ている部分が
有るのですが、決定的な所では騎士道には『婦人への奉仕』と言う物があります。『葉隠』
の有名な一説の『武士道と云うは死ぬ事と見付けたり』風に説明しますと、『騎士道とは
婦人を守って死ぬ事と見付けたり』みたいなものです。人身御供は、勿論成ってもらっ
ては無くする方が好きです。
アニメ・漫画・映画等の台詞の方は勿論そのまま使えるものも有れば、若干中身・使
い方を変える等すれば使える物（名言）が沢山有るので尚好きです。アニメ好きと言っ
ても有りますが、その一部ですが、『あきらめたらそこで試合終了だよ』・『逃げちゃダメ
だ×3』・『人が死ぬのはいつだと思っ？』（中略）人に忘れられたときさ！』・『女の嘘は許
すのが男だ』・『戸惑いこそが人生だよ』・『飛ばねえ豚はただの豚だ』・『あなたは死なな
いわ、私が守るもの』・『貧乳はステータスだ！希少価値だ！』・『幸福は自己満足。不幸
は被害妄想』・『あのね、目が前についてるのは前に進むためなんだよ』・『ハイリスク・
ノーリターン』・『諦めた瞬間に老いは始まるから』です。
一部の台詞の意味等を説明しますと、『あきらめたらそこで。。。』や『諦めた瞬間に
。。。』は今もスポーツやスポーツ大会（記録会）をやっている僕には好きになれる言
葉です。『ハイリスク。。。』は他人の為にならんという考えになれます。『人が死ぬの
は。。。』は昔からの持論の代弁をしてくれているからで、存在意義の有無を語ってい
る様な物で逆を言えば、寿命などでこの世から居なくなってもその人を忘れさえないな
ければ、その思っている人の心の中で生き続ける事が出来るという事です。『貧乳は。。。』
は、自分にとってのコンプレックス・周りより劣っている点をネガティブに捉えず、逆
に個性・自分だけの利点に変える（利点と考える）所が好きです。

田村 亮彦

せっかくの区民祭り、雨が降って残念だったけど、日曜日は晴れて良かった。すごく楽しかった。売り子が特に楽しかった。区民まつりは雰囲気がいいので、普段、外に出られない人が来るには良いところだと思う。

真部 千代子



十月九日（土）・十日（日）の両日、みなと区民祭りが行われました。一日目（九日）は生憎の雨で風の子は参加せず、実習所で活動をしました。飛鳥製薬会社の社員の方五名が、ボランティアとして参加してくれました。午前中は、皆で自己紹介を行い少し早めの昼食をとりました。午後は前半に二つの班に分かれて、テーブルゲームの班とポッチャの班で行いました。後半は、小野塚さんと田村さんが担当となりクイズを行いました。二人のクイズは毎回、皆の頭を悩ます問題ばかりで、今回も一癖も二癖もある問題が出題されました。みんなの真剣な顔が、今でも目に浮かんできます。

二日目（十日）は、明け方少し小雨がぱらついていたのですが、そのうち雨が上がってきたので、増上寺に行き商品の販売をしました。前日の雨のせいで、品物を実習所からキャブで運んできたため、販売時間を遅らせましたが、お客様の足取りも順調で、売り上げも上々でした。二日間とも、売り場にたって商売をしたかったですが、一日だけでも行えて、風の子一同一安心をしました。

田中 聡



区民祭り 感想



みなと区民まつりのボランティア活動に参加して

増上寺境内の「風の子会」テントでのボランティア活動は、障害者のトイレ介助や食事介助ならびに車椅子介助等でした。食事介助と車椅子介助は、今回が初めての経験でしたが、障害者に不安を与えてしまったのではないかと自問しています。まつり会場の付き添いでは、屋台でビールを飲んで「美味しい！美味しい！」を連発していた障害者のOさんとKさんの歓喜に胸が熱くなりました。

重度の障害を持つ人達が、お祭りに参加し楽しめる環境づくりこそが、日本の将来を元気で明るくする手立てではないかと思えます。

老人ボランティア（片岡和夫）



スケジュール

10月31日(日) ヒューマン
ぷらざ祭り

11月 9日(火) 区長との
懇談会

12月18日(土) クリスマス会

きょうされん大会 報告

全体的な感想や交流会の感想などは他の参加者も書いていると思うので、僕は分科会についての感触のみ書いてみる。それ以外で感じたことといえば、飛行機はやはりJALが一番快適だと感じたことと、泊まった宿が思ったよりも安く狭いビジネスホテルだったということくらいか。

分科会レポート

・初日

太平洋戦争時の沖縄戦についての講演。戦時中に障害者がどのように扱われていたのかという点を主に語られるかと思われたが、それについては配られた冊子の一部を読むだけにとどまり、大半は沖縄戦の厳しさについて語られていた。話にとりとめがなく、脈絡もあまり感じられず、「人権」というテーマとどのあたりが合致するのかわからないような講演だった。



・二日目

四人のシンポジストがそれぞれの視点から差別や人権について語る。水俣病について、ハンセン病について、血液製剤による肝炎感染について、知的障害者が警察官ともみ合いとなりその後死亡してしまった事件の裁判について、の四つの講演だった。水俣病については熊本大の教授がパワーポイントを用いて、原因、経過、差別について語った。実際の被害者の写真がスクリーンに映し出された時には息をのんだ。ハンセン病患者が、日本では国の政策として隔離されていたということ、世間から酷い差別を受けていたこと、など漠然とは知っていたが、現実を詳しく語られると言葉を失った。肝炎感染については実際に出産時に感染した女性が自身の体験を通しての話で、これはここ数年ニュースでもよく目にするが、直に話を聞くと身につまされる思いがした。裁判については担当の弁護士が語る。知的障害者が死亡したことについて警察官は何の責任もとられなかったそうで、警察の障害者に対する認識の浅さについて指摘していた。

差別とは何か、人権とは何か、政治に対してどのように働きかけていくべきか、どのように行動しつづけていくべきか、と話が展開していき、そしてまとめられた。



二日間を通して感じたことは、教授や専門家たちの話をひたすら聴くという、まるで大学の講義のようなものだったということで、イメージしていた分科会とは誤差がありすぎた。けれどこの分科会を選んだのは僕なのだから、僕の選択ミスということになる。次回参加することがあれば、障害者が多く参加して活発な意見交換をしているような会に出てみようと思う。

小野塚 航

今回、博多で行われたきょうされん大会に初めて参加させて頂きました。私が思っていたよりも多くの人が集まり、活気のある大会であったと思います。

私はメンバーの田中聡さんと「暮らし・住まい」というテーマの分科会と一緒に参加しました。今回はこのテーマから「安心できる高齢化を迎える」ということにスポットを当てて、討議したり、ホームで働いている方々のお話を聞いたりすることが出来ました。

福祉業界に入ってまだ日の浅い私にとっては、多くの情報が得られ大変勉強になると同時に、考えさせられる問題なども数多くありました。特に医療面の問題や、制度の問題、そしてそれらの問題に対し、準備やネットワークを広げる必要性があるといった討論や講義は良い刺激、経験になったと思います。

ただ今回少し残念だったのは、分科会での説明が大学の講義のように少々難解で、実際障害をお持ちの参加者は数える程しかいませんでしたが、もっとどんな方にもわかりやすい形で進めて頂けたら、当人である障害をお持ちの方の生の意見も聞け、より内容の濃いものになるのではないかと感じました。

今回勉強になったこと、疑問に思ったことなどを糧とし、今後の自身の仕事に還元していけたらと思います。

丸山 泰慶

きょうされん 大会報告

きょうされん大会の報告は、私が参加しました分科会「精神障害」について紹介します。

「精神障害」の分科会のメインテーマが「働く」ことで、それをテーマにこれまで考えてきたそうです。そして今年のテーマは、「当事者が語る就労への想い」ということで、当事者と支援者双方の報告がありました。

報告の趣旨として、働く場を持つ事から自分自身の自信に繋がり、働きがい、生きがいを求め、結果生活の向上に繋がるとの話でした。そのことは支援者側の報告では言葉による説明で、当事者側からの報告では、今の仕事に対しての自信や気概から感じられました。

働くことが生活改善の起点となる話でした。確かに無職だと自信なんて持てませんし、社会にとって不必要であるかのような鬱屈した気分にもなります。そして社会との繋がりが希薄になります。

さて風の子で、さぁ明日から右へ倣えとは参りませんが、社会との繋がりを実感でき、且つそこから発展できる活動を模索しなければならないのではと感じています。

山名 宗孝



きょうされん大会報告

十月二十三、二十四日とメンバー、職員総勢七名できょうされん大会に出席しました。二日に渡り行われたのですが、私は太田さんと「私たちはこんな活動をしています」という分科会に参加しました。この分科会は、障害者の自治についての発表がメインでした。

他の施設の発表を聞いて感じたのは、障害者が自分達だけで自治会を作っているということに誇りを持っているということです。確かにとてもすばらしいことだと思いました。風の子では、メンバー、ボランティア、職員とみんなで考えようというスタイルです。どちらが正しいかは私にも分かりません。たぶんどちらも正解だと思います。今後は、風の子としてどちらの道を進んでいくのか、また新しい道を探して進んでいくのか、きょうされん大会で学んだことを今後に生かしていきたいと思います。

最後になりましたが、大会期間中に活動にご協力いただいたボランティアそして家族の皆様ありがとうございました。



岡本裕介



10月23日にメンバーと職員で福岡のきょうされん大会に行ってきました。私はメンバーの小野塚さんと『いのち、尊厳、人権』というテーマの分科会と一緒に参加しました。1日目は、沖縄戦での話を聞きました。その時、障害者がどのように扱われていたか、って話は、ちょっとりしか話してもらえず、期待してた分残念でした。2日目は、水俣病、ハンセン病、血液製剤による肝炎感染、知的障害者が警察官と、もみ合いとなってその後、死亡してしまった事件の裁判についての話をしてもらいました。私は、知的障害者と警察がもみあってその後死亡して

しまった事件には、すごく身近に感じました。また、社会が障害者に対しての理解がまだまだ浸透してないことが、ショックでした。このような事件は、二度と起こらないように、福祉に全体に対して理解ある国になって行って欲しいなと改めて思いました。初めて行ったきょうされん大会は、とても楽しかったです！！！！

でも、大好きな明太子が買えなかった事が心残りでした。。。。W
きょうされん大会は、色んな思いを感じられた、いい経験になりました。

平沼 実華

学習会報告



十月 六日【区民まつり準備】
区民まつり直前ということ
で、一日中準備に費やしました。
かなり忙しかったです。

十三日【作業所見学について
の話し合い】
来週の予定だった見学を辞め
るか、見学先候補の提示・説明
方法等を話し合いました。

二十日【作業所見学について
の話し合い】
作業所見学担当者が集めた資
料等を皆で見て、何処に行くか
というのを話し合いました。

二十七日【きょうされん
報告会】
十月二十三日に行われたきよ
うされん報告会に行った人が、
其の様子・感想等を話してくれ
ました。

田村 亮彦

活動 報告



9月にみんなでぶいんあらもーど
を作って食べました。
とってもたのしかったです。
元気に頑張ってます。
笑いあり、涙あり、そういう所です。
みんなで区民まつりの準備もしま
しました。

柳川 敬事

寄付のお礼

・寄付をして下さった方
小野田 和子様

・賛助会にご賛同して下さった方
木内 喜代子様、 薛 永日・
薛陳 月見・薛 美沙・美莉・芬芳様、
國枝 三代子様

わたるのドミトリーライフ

【ドミトリーとは英語の dormitory つまり寮という意味】

第32話 奇跡はそう簡単には起きない

大学生活4年目の夏が終わり、秋が過ぎ、肌には寒さが感じられるようになった頃、どうやら僕は4年で卒業するのは厳しいようだと思いつき始めた。一般教養や専門科目、語学やゼミなどできる限り必死に講義に出席し、レポートも提出したし卒論の準備もし始めた。けれども僕の3年間の自堕落さで失った単位は、そんなちっぽけな努力で埋められるほど甘いものではなかった。

僕が寮に入った当初は5年生や6年生といった留年組が結構いた。しかし年を重ねていくうちにそういう留年組も少しずつ減っていき、僕の学年で卒業が危ういのは僕ともう一人、イチの二人だけだった。「まさか自分が5年生リーチになるなんて入学した時は思いもしなかったな。我ながら情けない話だ」「俺だってそうだ。でもヅカシがいるから心強いぜ」「なにいつてんだか」。イチとは学部が違ったので講義の情報を交換することはできなかったし、彼の経済学部には卒論もなかった。けれども同じ学年で、しかも仲のいい奴が同じような状況にいるというのは僕としても少なからず励みになった。

朝、当たり前のように起きて1限から講義に出て、課題を受け取ったり出席表に学籍番号と名前を書いたりし、レポートや課題をチェックし、ゼミには毎週欠かさず出席し、たまに後輩に誘われてカラオケに行ったり麻雀をしたり、どんなテーマで卒論を書けばいいのかをゼミ仲間と語り合ったり、というような日々を過ごしながら僕は4年目にしようやく掴んだキャンパスライフというものを実感しながら、同時に留年という逼迫した危機感に迫られた毎日を送っていた。

年末にはいつものように実家に戻って年を越し、正月が過ぎてまた寮に戻って学生生活に取り組む。同じ学年の仲間はほとんど卒業が決まっているし、就職活動も終えているようだった。そんな彼らを横目で見ながら僕は必死に最後の足掻きをしていた。それは文字通り足掻きでしかなく、宝くじで1等でも当たるような奇跡でも起きない限り報われない足掻きだった。

「ヅカシ！ 俺、なんとか卒業できるみたいだ」僕には奇跡は起きなかったがイチには起きたようだ。それは彼が必死に努力したうえでの結果なのだろうけれど、僕には奇跡に見えた。いや、そうでも思わないと僕の努力はしょせん足掻きくらいのものでしかなかったように感じてしまうからだ。けれど、どんなふう感じたところでイチは卒業でき、僕はできそうにない。この結果が厳然たる事実なのだというのを身をもって思い知らされた。「やったな！ おめでとう」言いながら自身の不甲斐なさに歯噛みした。

年度末の足掻きも空しく、僕は結局卒業できないままに4年目を終えた。同じ年に入寮した仲間を卒寮式で見送り、5年目の部屋を決め、実家へ帰って留年の報告を親にする。父は僕のすることに対して良くも悪くも許容してしまう人なのでリアクションについては初めから記憶がないのだが、母がどんな反応をしたのか思い出そうとしても僕は思い出せない。それは、自分自身に対する情けなさ故のことだろうと思う。ちなみに、同じ年に大学に入学した妹は（僕は2浪した上での大学なので、そういうことになったのだ）順当に卒業して就職も決めた。

情けなさや不甲斐なさを全身に背負って4年目を終えて、僕は大学、そして寮生活5年目を迎えることになった。

～ 33話につづく ～

第三話

そんな事件があつてから二、三年経った昭和二十三、四年に東京に戻ってきた僕は、家が出来の間、上野の業平橋のガード下で暮らしたこともありました。僕の半生の中であんなに狭い家に住んだことはありません。四畳半に、祖父、祖母、母、妹、そして僕。朝五時から、午後十一時半まで、東武鉄道が通る音が聞こえる生活が四年くらい続きました。そして青山の最初の家が出来たのです。そこに引っ越してきたときは、余程嬉しかったのでしょう、妹は便所に入って歌を歌っていたのを覚えています。それから十数年は何事もなかったのですが、僕が思春期に差し掛かった頃、お喋りだった僕が何も言わなかったり、しょんぼりしている事に母は気がついたので。そんな僕に母はこう言ったのです。「特に男の人の場合は難しいらしいわねえ」それからの母は僕を大人扱いしてくれました。だからその母がガンだと解ったときのショックは、計り知れない物があり、おまけにそのガンも末期に近い状態だと医者から聞かされたときには、僕は気が狂いそうに取り乱したのを今でもよく覚えています。そして、昭和四十六年六月三十日、母は永遠に帰らぬ人となったのです。

太田 裕

僕の生い立ち

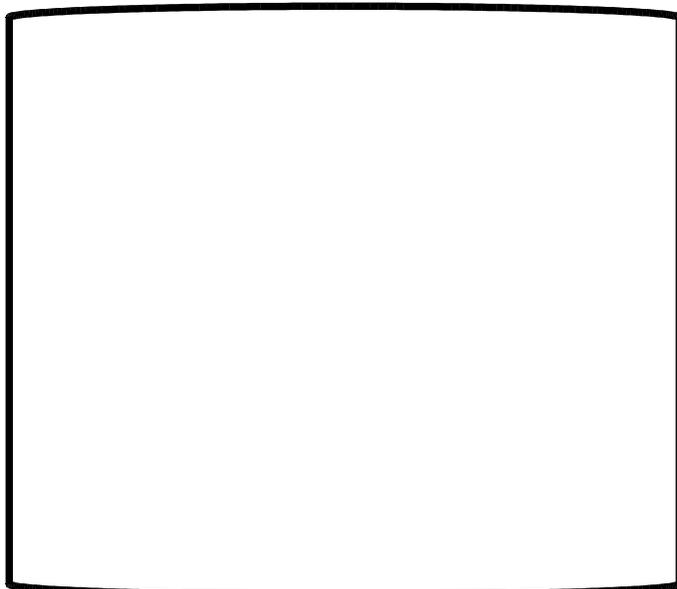
10月の夕会は2日と16日の2回のみ。区民まつりの最終確認、ヒューマンプラザ祭りのメンバー出欠確認、助成金の使い道、クリスマス会の開催可否及び日程確認そして実行委員の選出、インフルエンザ予防接種の説明、そして個別支援計画とケース記録についての説明などが行われた。

この月は区民まつりやきょうさん全国大会など大きな行事が続き、加えてプライベートでも予定があり、忙しいやら慌ただしいやらで夕会にかけるウエイトが小さくなってしまった。年末も近くなって来たことだし、もう一度気を引き締めて実のある議論をしていきたい。

小野塚 航

夕会便り






今、私はパソコンを買いだと思
っています。部屋が狭いので、置
き場所がない。一人部屋が欲しいで
す。四人部屋ではプライバシーは保
てません。一人部屋に住みたいです。
部屋代を払ってもいいです。

和栗 顕太郎

ひとりぼっちの障害者をなくそう
特定非営利活動法人・風の子会
 ~定価40円~

編集者
 小太田 圭子
 田中 塚
 松本 恵
 右田 司
 幸田 高史郎
 和栗 顕太郎

太田 圭子
 中 塚
 本 恵
 田 司
 高史郎

太田 久間
 佐久間
 田村 彦
 三木 亮
 柳川 彦
 吉田 庸稔

久敬 彦
 代事 人

編集人：【高浜生活実習所】
 生活介護、就労継続支援B型

〒108-0075
 東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜3階
 TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

ブログ：<http://kazenokokai.blogspot.com>

発行人：障害者団体定期刊行物協会
 東京都世田谷区砧6-26-21

